



Japan
Food
Research
Laboratories

第 14092561001-01 号 page 1/5
2014 年(平成 26 年)09 月 19 日

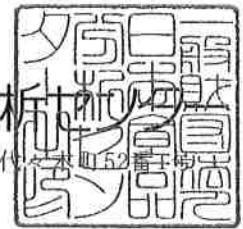
試験報告書

依頼者 ラレシーブオーバンブー合同会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木 1-5-2 富士町



検 体 ランドリー&バスウォーター

表 題 異物検査

2014 年(平成 26 年)09 月 10 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

異物検査

1 依頼者

ラレシーブオーバンブー合同会社

2 検 体

ランドリー&バスウォーター

3 試験目的

検体に認められる白色の沈殿物(以下「異物」という。)が何であるかを調べる。

4 試験概要

異物について以下の試験を行った。

- 1) 顕微鏡観察
- 2) 赤外吸収スペクトルの測定
- 3) エネルギー分散型X線分析法による元素の定性試験

5 試験結果及び考察

1) 顕微鏡観察

異物には何であるかを特定することができる特徴的な形状は認められなかった(写真-1及び2)。

2) 赤外吸収スペクトルの測定

検体(ランドリー&バスウォーター)の影響を除くため、異物を水洗後、風乾したものについて赤外吸収スペクトルの測定を行った。その結果、異物のスペクトルには $1200\sim 920\text{ cm}^{-1}$ にケイ酸化合物などの無機化合物に由来すると考えられる吸収ピークが認められ、そのほかに 1650 及び 1540 cm^{-1} 付近の吸収ピークからタンパク質の含有が示唆された(図-1)。ケイ酸化合物及びタンパク質の赤外吸収スペクトルの一例を図-2及び3に示した。

3) エネルギー分散型X線分析法による元素の定性試験

異物を水洗後、風乾したものについて元素の定性試験を行った。その結果、異物から多量の炭素、酸素、マグネシウム及びケイ素が検出された(図-4)。

以上の結果から、異物は主にケイ酸化合物(ケイ酸マグネシウムを主体とするものと推測された。)から成るものと考えられ、タンパク質も含有するものと推察された。

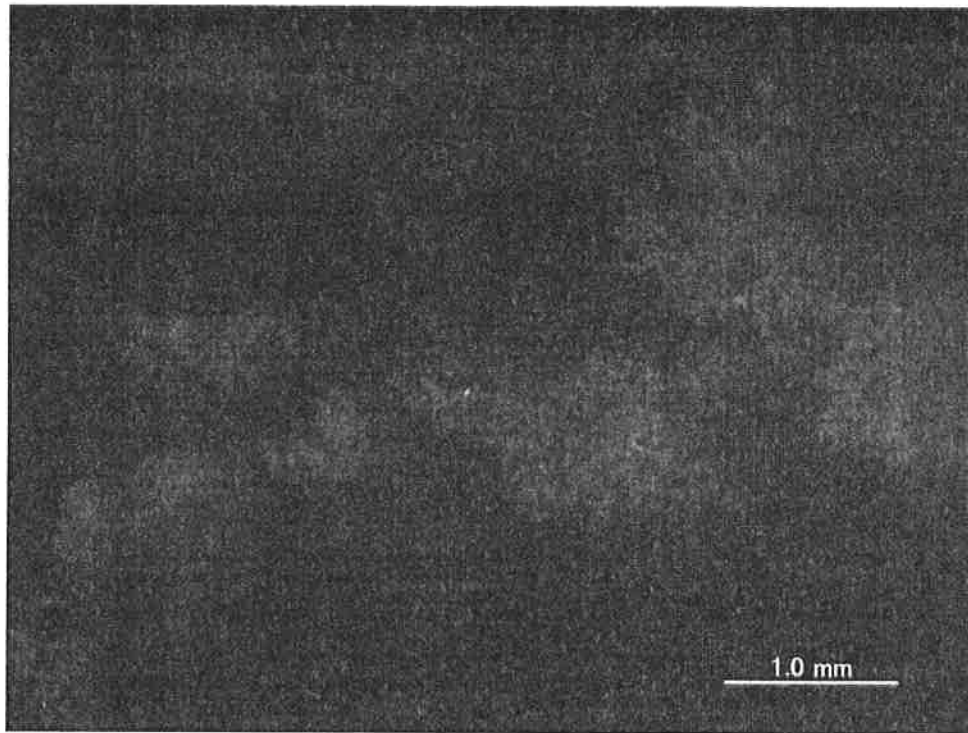


写真-1 異物の外観の一例

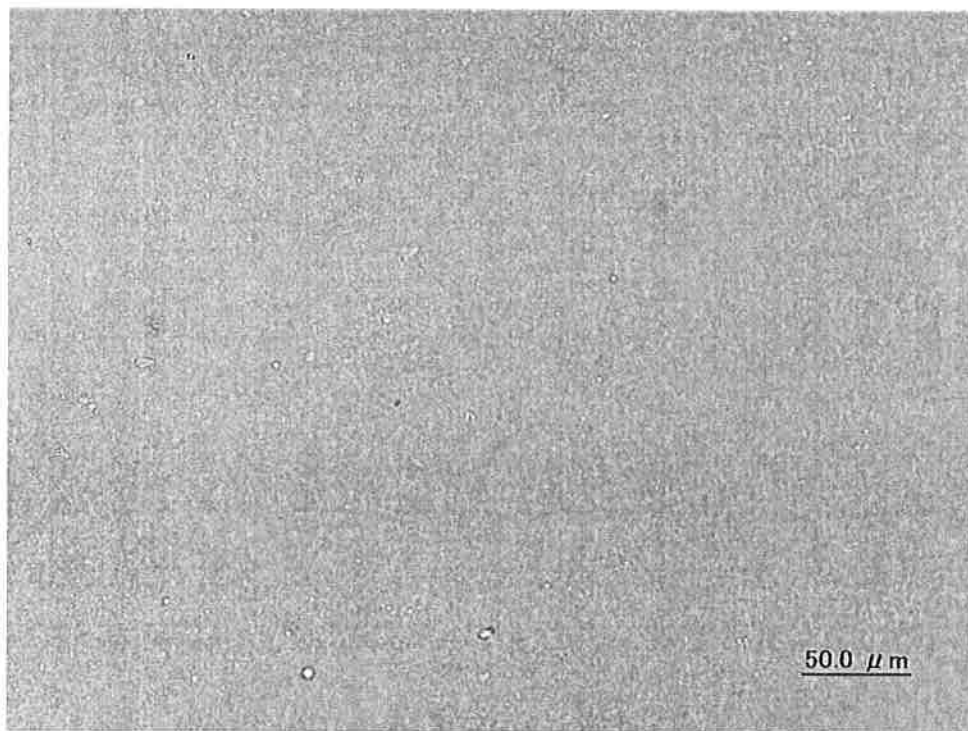
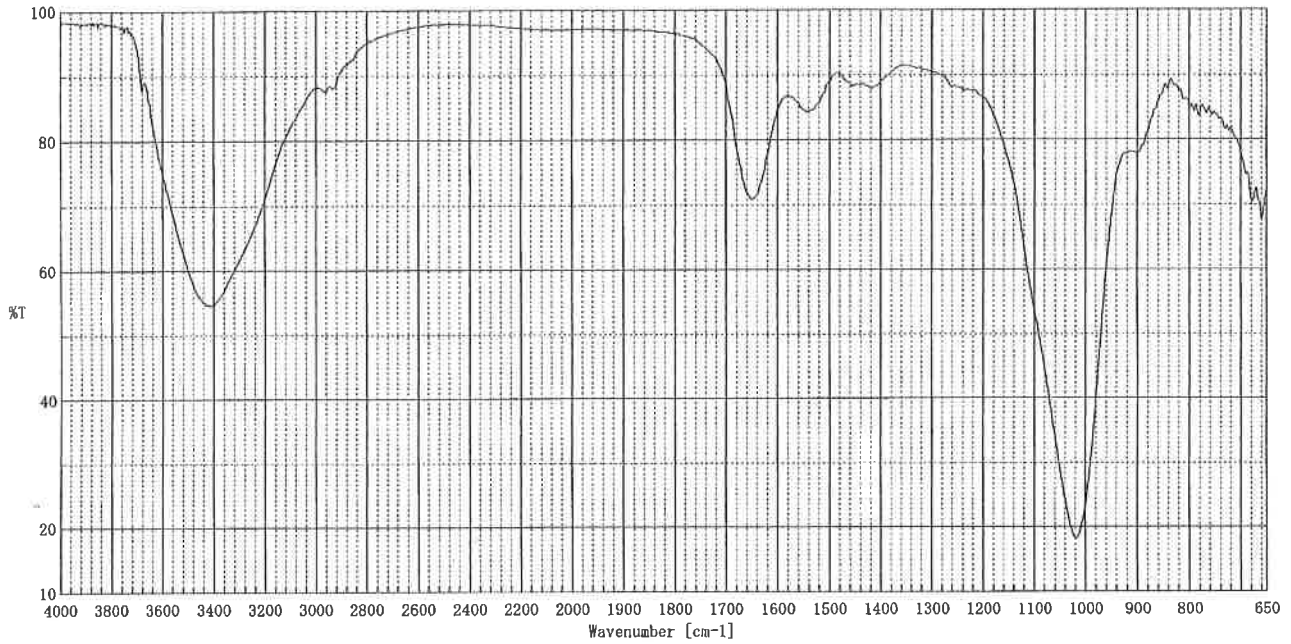


写真-2 異物の顕微鏡写真



サンプル名 14092561
 分解 4 cm⁻¹
 積算回数 Auto (75)
 アポダイゼーション Cosine

図-1 異物を水洗後、風乾したものの赤外吸収スペクトル

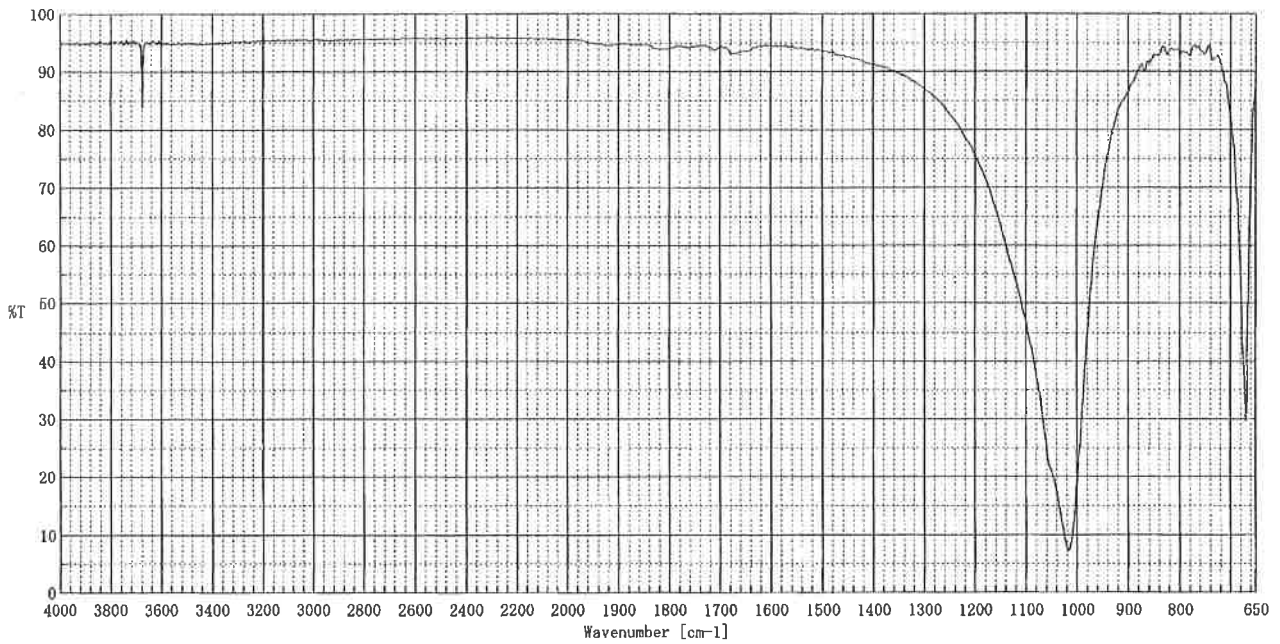


図-2 ケイ酸化合物の赤外吸収スペクトルの一例[タルク(ケイ酸マグネシウム)]

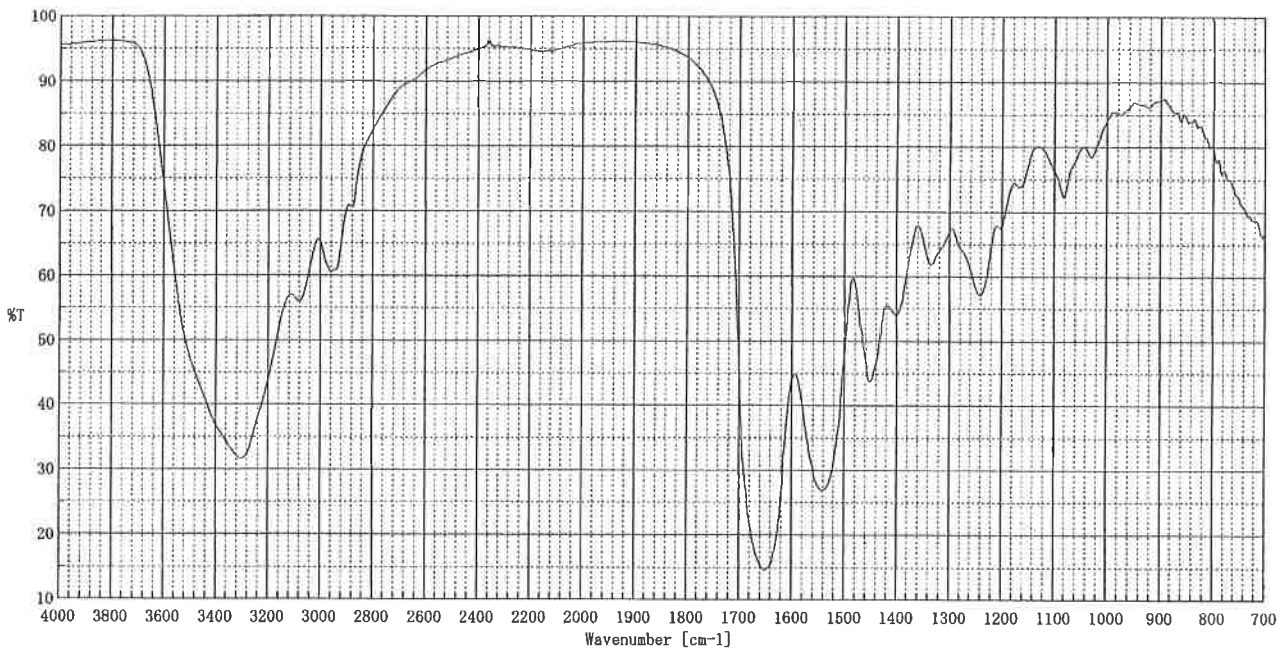


図-3 タンパク質の赤外吸収スペクトルの一例(ゼラチン)

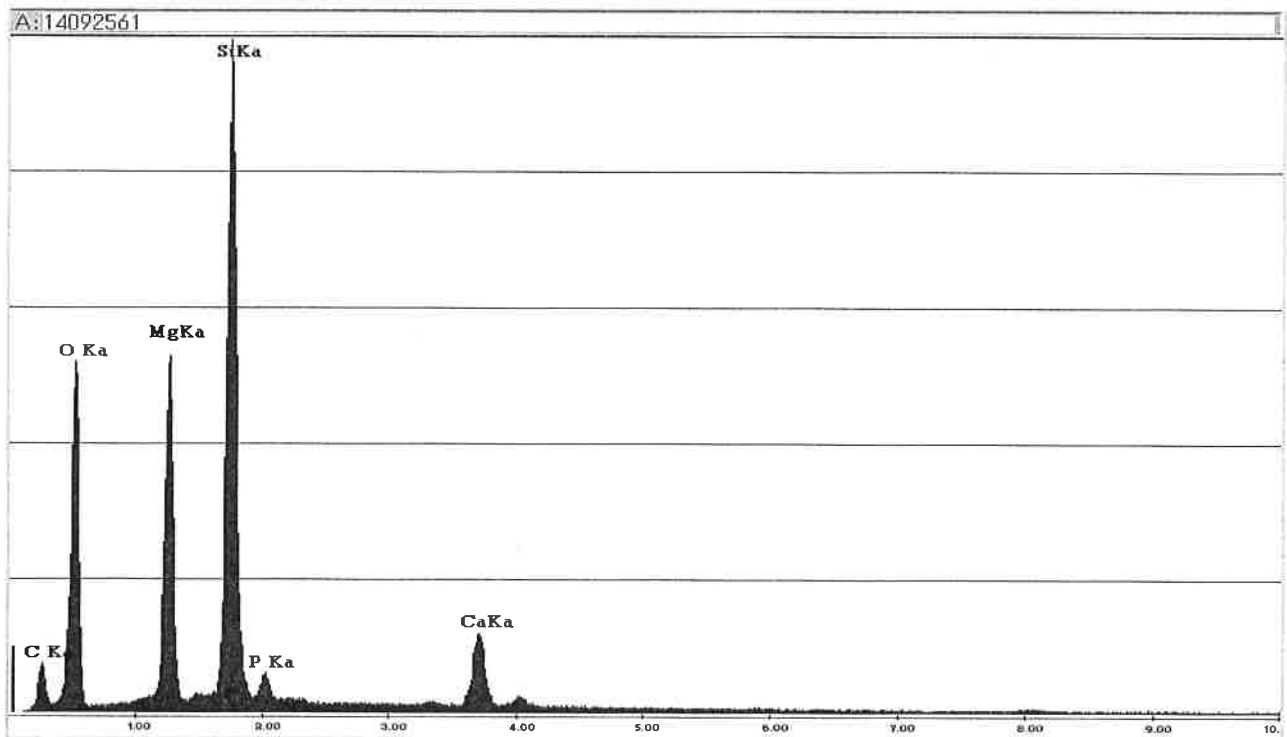


図-4 異物を水洗後、風乾したもののX線エネルギースペクトル

以 上